

# 東京大学



トイレ入口



「KYOSS」のラウンジに隣接するオールジェンダートイレ。入口の壁は、爽やかで清潔感があり温かみのある空間となるよう“淡緑”。トイレサインには、スクールカラーの“淡青”を採用した。



個室①

大便器上部の照明からの優しい光が、安らぎを感じさせるトイレ空間。2ヶ所設けられた個室トイレでは、手洗器を備え、用足しから手洗いで一連の行為を室内で済ませることができる。



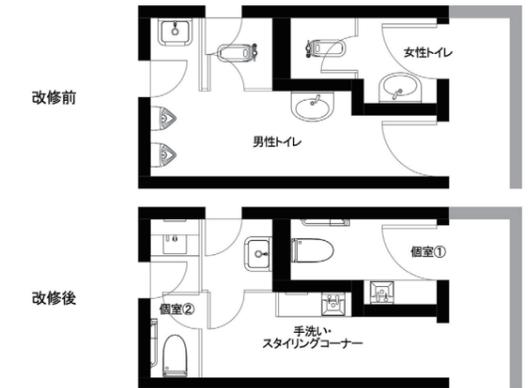
個室② トイレ通路

明るい木目を採用した温かみのある空間。ブース壁と扉を天井まで立ち上げることで、個室感を高めるとともに防犯対策も図っている。



## トイレ図面

改修前は男女別だったトイレを、既存の躯体を壊さずオールジェンダートイレ+手洗いスタイリングコーナーに改修した。



手洗い・  
スタイリングコーナー

各個室に入らなくても手洗いや身づくろいができるよう、手洗い・スタイリングコーナーを個室外に設置し、だれもが使用しやすいよう配慮。鏡は、光が顔全体に行き渡り、顔映りのよいLED照明付鏡を設置している。



個室②

大便器は、スタイリッシュな形状のウォシュレット一体形ネオレストAHを採用。壁面にはL型手すりを設置している。また、防犯対策として非常用呼出ボタンを各ブースに設置している。



個室②

個室②の洗面コーナーには、荷物が置けるドライエリアを備えたツインデッキカウンター（スペースアップタイプ）を採用し、手荷物への配慮がなされている。

## 水まわりの特長

### 改修の経緯

東京大学が目指す「世界の誰もが来なくなる大学」の基盤として、キャンパスの包摂性・多様性をいかに高めるのが改めて大きな課題となるなか、教育学部ではこの度、「教育学部セイファー・スペース（KYOSS）」を開設。多様なジェンダー/セクシュアリティ、障がい、生きづらさの当事者性を持つ学生・院生・教職員相互の学び合いや協働を通じた、新たな教養教育と多様な知性が展開するプラットフォームとして運用される。拠点となるラウンジのコンセプトは、「訪れる人が思い思いに居心地よく過ごせるスペース」とし、オットマン付きの椅子やブース席、畳やソファを用意。隣接するトイレは多様な背景をもつ学生が安心して利用できるオールジェンダートイレに改修した。

### トイレの特長

改修前は男女別だったトイレを、オールジェンダートイレに改修。各個室には洗面カウンターを設置し、用足しから手洗いで一連の行為を行うことができる個室完結型とした。また、さまざまな利用者が安心して使用できるよう、個室にはL型手すりや非常用呼出ボタンを設置。また、トイレを利用せず、好きなタイミングで手洗いや身づくろいが行えるよう、個室外のトイレ通路に洗面・スタイリングコーナーを設置した。トイレサインは、性別を表示せず、洋式便器のピクトグラムのみを掲示し、東京大学のスクールカラーである“淡青”を採用。今回のトイレ改修にあたっては、TOTOに相談し、複数のレイアウトパターンの中から既存壁を活かしながら、個室内外に洗面コーナーのあるレイアウトが選択された。

## 建築概要

名称	東京大学
所在地	東京都文京区本郷7-3-1
施主	国立大学法人 東京大学
竣工年月	(改修)2022年3月
延床面積	14㎡(トイレ)

### おもなTOTO使用機器

ウォシュレット一体形便器 ネオレストAH:CES9788S / 棚付二連紙巻器:YH702  
洗面器:LS721 / 台付自動水栓:TLE26501J  
自動水石けん供給栓:TLK07S01J  
ツインデッキカウンター（スペースアップタイプ）:MDWE  
LED照明付鏡:EL80019 / L型手すり:T112CL9



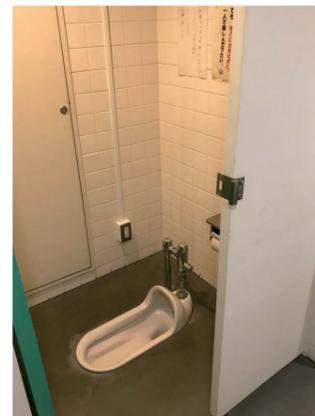
教育学部セイファー・  
スペース (KYOSS)

赤門総合研究棟内に教育学部が開設した、KYOSSのラウンジ。訪れる人が思い思いに居心地よく過ごせるスペースとして、レイアウトや設備には学生の意見を反映。貸し切りでの勉強会やイベント開催なども可能。



教育学部セイファー・  
スペース (KYOSS)

ラウンジ内にはひとりになれるオットマン付きの椅子やブース席と複数人が座れる畳やソファを用意し、目的や利用人数によって使い分けることができる。



改修前



改修前のトイレは、タイル貼りの内装で老朽化が目立っていた。大便器ブースは男性トイレ、女性トイレともに各1ヶ所で和式便器が設置されていた。